

第192回 IDT輪読シリーズ(22)

『インストラクショナルデザインとテクノロジー:教える技術の動向と課題』

第22章 3か国の大学におけるデザイナーの5つの役割

- 豪・日・米の高等教育の相違点 → 教員の職位の変遷
- 5名のインストラクショナルデザイナーの役割, その課題などを見てみよう.
  - ① 根本淳子助教(日本)の場合 → オンラインでの学生支援やカリキュラム開発
  - ② ジャッキー・マクドナルド上級講師(豪州)の場合 → CoPsの構築支援
  - ③ ブレンダ・リッチフィールド教授(米国)の場合 → FD実践&ID実践
  - ④ ピーター・アルビオン准教授(豪州)の場合 → リーダーシップの発揮
  - ⑤ ジャック・デンプシー教授(米国)の場合 → 高等教育の三位一体で改善  
→インストラクショナルデザイナー(+高い意欲)には期待と重責が寄せられている.
- 主要な原理まとめ: 高等教育でインストラクショナルデザイナーとして働くためのコツ?
- 応用問題: ①メンタへの質問リスト, ②ID活用を説得する方法 ③計画方法
- インストラクショナルデザイナーは誰が担うのがよいの? (日本の場合)

## 豪・日・米の大学の共通点・相違点

**[共通点]** 運営方法が、多くの点で類似している(豪・日・米).  
15週/学期, 担当科目数, 学部長・副学部長・学科長, 教育・研究・業務の配分 など

**[相違点]** 教員の職位の変遷が異なる.

- 助教・准教授・教授(日・米),
- 助講師・講師・上級講師・准教授・教授(豪)
- 昇進と終身在職権とは別(米),
- 終身在職と非終身在職(2~3年契約)(日) など

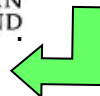
## 根本 淳子 助教の場合 (熊本大学・日本)

- 役割: オンライン大学院における教育の設計と支援プログラムの実施
- 担当科目: 春学期3科目・秋学期2科目
- 現在の仕事: カリキュラムの刷新や授業設計支援, 外部資金で行うストーリー型カリキュラムの開発 など
- 現在の職場環境: 専門的なインストラクショナルデザイナーとしての訓練を働きながら得ることができる理想的な場所
- 課題・問題: 短期間に限られた資源で成果を上げなければならない。



# ジャッキー・マクドナルド上級講師の場合 (南クィーンズランド大学・豪州)

- 現在の職業: インストラクショナルデザイナー@USQ遠隔・eラーニングセンター(DeC)
- 現在の仕事: 学習・教授方略の開発を促進する, 遠隔教育用の教材作成過程を紹介する, など ← 教員の不安感への配慮も含む.
- 必要とされるスキル: 学部スタッフと効果的にやりとりすること, チームメンバーの知識への配慮
- これからの役割: インストラクショナルデザイナーから学習指導デザイナー(Learning & Teaching Designer)へ→研究から学習指導へ変わりつつある大学の組織としての優先順位を反映する役割
- 課題: 学部全体と一緒に仕事をするグループアプローチ  
→実践共同体(CoP)の構築を支援
- 2010 ALTC(オーストラリア学習指導審議会) Teaching Fellow
- <http://www.olt.gov.au/altc-teaching-fellow-jacquie-mcdonald>



# ブレンダ・リッチフィールド教授の場合 (南アラバマ大学・米国)

- FD(Faculty Development)担当部署:大学の教員を援助する.  
学生と学習文脈の分析, 教育の開発と設計, 革新的な実施方法, 学習指導の評価 ←IDの専門用語を使わずにたやすく理解される方法で設計プロセスの各段階を踏む.
- FD担当者としての仕事①:新任教員のためのオリエンテーション, ワークショップを企画・実施 →テクノジスキル, さまざまな評価技法, 授業の実施方略, コース開発, 問題解決, クリティカルシンキング, 研究助成申請のための作文アドバイス, 終身在職権と昇進のための手順と準備, 研究スキル
- 仕事②:教員の個別支援, ティーチングティップスの配信
- 科目担当:「高等教育における指導」
- 現在の問題・課題:教員のワークショップ参加を得ること, 「私は講義以外に教える方法がある」ということを教員に気づかせること
- <http://www.southalabama.edu/coe/litchfield.shtml>

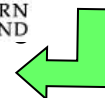


# ピーター・アルビオン准教授の場合

(南クィーンズランド大学・豪州)

- 現在の職位: 豪州の地方大学教育学部の准教授 ← 講師の段階で終身在職権を得た.
- 期待されている領域: 教育 / 研究・コンサルティング / 業務・運営
- 教育工学専門家准教授の教育の任務: 科目内容と教え方に最新動向を反映すること, 最新テクノロジーを教育的に利用すること, 学部の他のメンバーにアドバイスや助けを提供すること
- 准教授の役割: 教育と研究において学部におけるリーダーシップをとること, 運営と業務を通じて学部や大学, 学会組織に貢献すること, 学術論文等の査読をすること, 学部組織の発展に貢献すること ← 慎重な自己管理が必要
- 課題: テクノロジーと教育の両方について, 特に両方の関係における発展に遅れを取らないこと.

<http://staffsearch.usq.edu.au/default.aspx?staffsearchaction=showdetails&staffsearchrecordid=693>



## ジャック・デンプシー教授の場合 (南アラバマ大学・米国)

- 職歴: 教授昇格後, 10年のうち7年間, 学科長を務めた.
- 教授の役割: 教育プログラムや学科, 学部, 大学全体の運営でのリーダーシップ, 高等教育の三位一体(教育, 学術的な生産性, 運営)の指針を受け入れ, 改善努力すること
- 本著『インストラクショナルデザインとテクノロジー』の著者のひとり  
(鈴木先生のフロリダ州立大学在学時の同僚でもある)
- <http://www.southalabama.edu/coe/dempsey.shtml>



## 主要な原理のまとめ

「高等教育は、学生が学ぶのを助け、教員が授業の設計をする方法を学ぶのを助けることを通して、あなたのIDスキルを実践するための刺激的な場を提供する。」(p387)

- ① あなたがしていることを、普通の言葉で説明するよう準備すること
- ② 自分の時間を、研究に割り当てること
- ③ メンタを見つけること
- ④ 業務は時間のかかるものである
- ⑤ 他学部と同僚教員とよい関係を発展させること



## 応用問題①

**[前提]** 5年間産業界で業務経験。大学の新任ID教員。部局で一番年少。メンタが割り当てられた。

**[問題]** 学科で、学部で、大学全体で、期待される役割を完全に理解できるような質問リストとは？

**[中畠回答]**

- 学科で、学部で、大学全体で、それぞれにおいてどのような課題・問題・改善すべき点があるかを聞く。
- これらの課題・問題に対して取り組むために与えられている時間について聞く。
- これらの課題・問題に取り組む組織体制について聞く。
- 組織体制の中の自分の位置付け・与えられる責任領域について聞く。



## 応用問題②

**[設定]** あなたは教育学習センターにおけるIDer. 専任教員・非常勤講師の支援を行っている.

**[問題]** 化学専攻の新任准教授とコース再設計の話し合い. 新しい授業方法を試したいとは思っているが, 講義をやめることには懐疑的. 最初の打合せで何を話すか? IDについて、それがどんな働きをするか、どのように役立つかをどう説明する? どうやったら説得的に話が進められるか?

### **[中嶋回答]**

- 初回は, IDの直接的な説明は行わず, 専門用語も避ける. 近い領域の科目でID活用している事例の効果・効率の向上をできるだけ平易に説明する.
- やはり, ARCSのARC要因を満たす努力をすることが肝要(←ATを使って?).



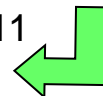
## 応用問題③

**[前提]** あなたは、新しい(新任?昇格?)准教授。他の教員よりも担当科目が多い。研究の時間がない。

**[問題]** 自分の任務を成功させながら、同時に研究のアジェンダを維持するためにはどのような計画を立てたらよいか?優先順位は?バランスをどう取るか?本当に困ったらどうするか?

**[中嶋回答]**

- まず教育と研究のゴールリストをそれぞれ作成し、スケジュール表に並べる。各ゴールに対して、ToDoを明示して一列に並べると、教育のToDo, 研究のToDoの序列がひとつのスケジュール上に並ぶ。あとは順番に時間軸に従って、ひとつずつこなす。万一、スケジュールがこなせないと分かった際は、まず自分で再検討・再計画する。これで収まらない場合は、上司に相談する。←そんな簡単ではないでしょうが。。。



## インストラクショナルデザイナーは誰が担うのがよいの？

- 「時間を捻出できない教員も多い。とすれば、大学教員に対して、IDの技能を持った人が手助けをするのがいいだろう。そうした人材としては、大学職員が最適である。領域専門家としての大学教員とID専門家としての大学職員が協力して、実質的に効果の高い授業を作るということである。」(向後, 2014)
- 「新たな職員業務として需要が生じてきているものとしては、インストラクショナルデザイナーといった教育方法の改革の実践を支える人材が挙げられる。」(中教審, 2008)
- 「FD 担当者は高等教育機関におけるインストラクショナルデザイナーである, とみなすことができないだろうか. 類似点は多い.」「内容の専門家との共同作業により幅広い内容領域の教育に関与する. (鈴木, 2009)

向後千春(2014)大学職員のためのインストラクショナルデザイン入門(上)(下),

<http://kogolab.wordpress.com/2014/03/03/shokuin-id-01/>

文部科学省中央教育審議会(2008)答申「学士課程教育の構築に向けて」第3章「学士課程教育の充実を支える学内の教職員の職能開発」

鈴木克明(2009) ファカルティ・ディベロッパーのID的基礎とは何か, 日本教育工学会研究会報告集, JSET09-5, 45-48

©2014 中島康二

